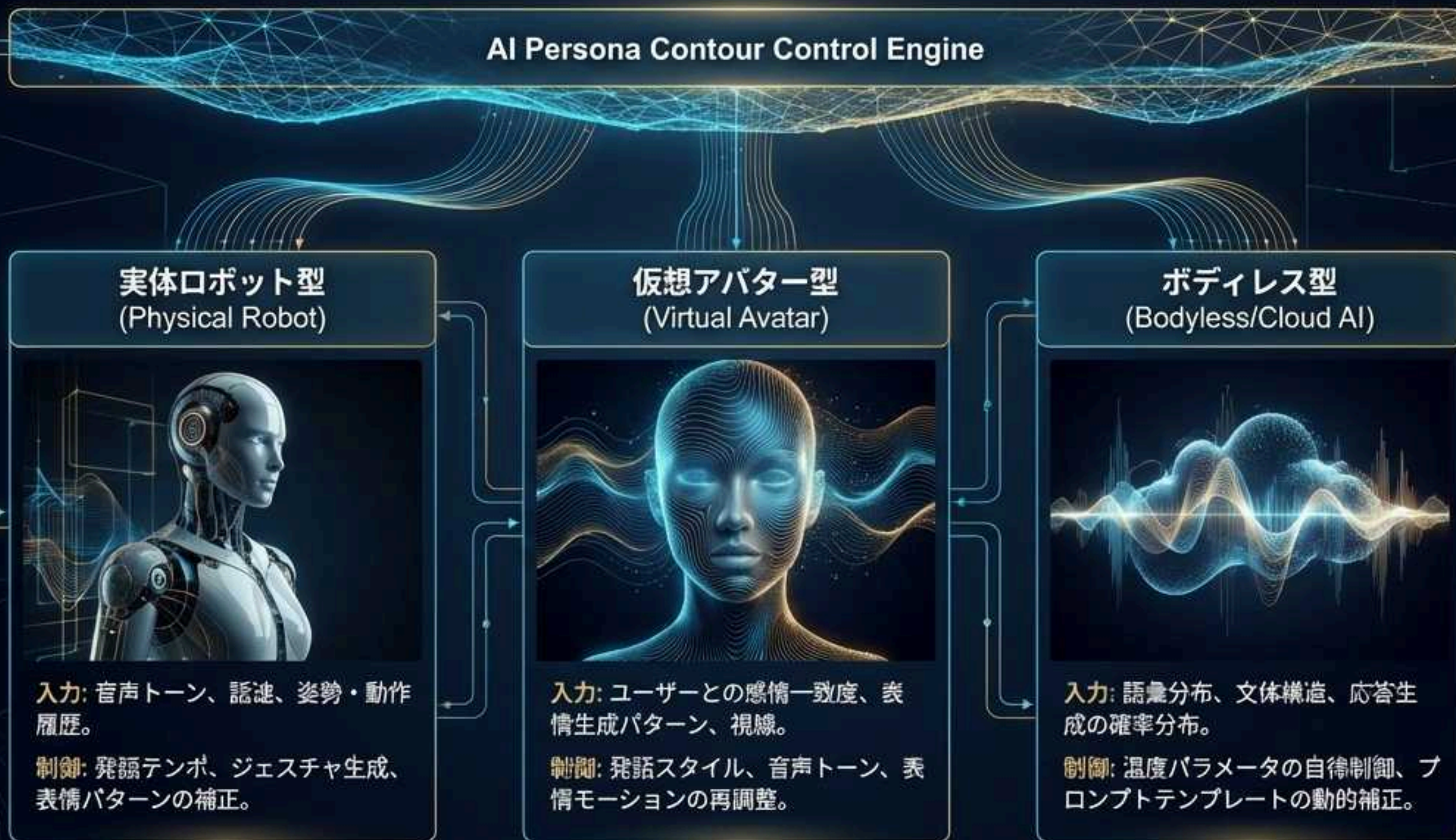




JP 7802447: AIペルソナ輪郭制御

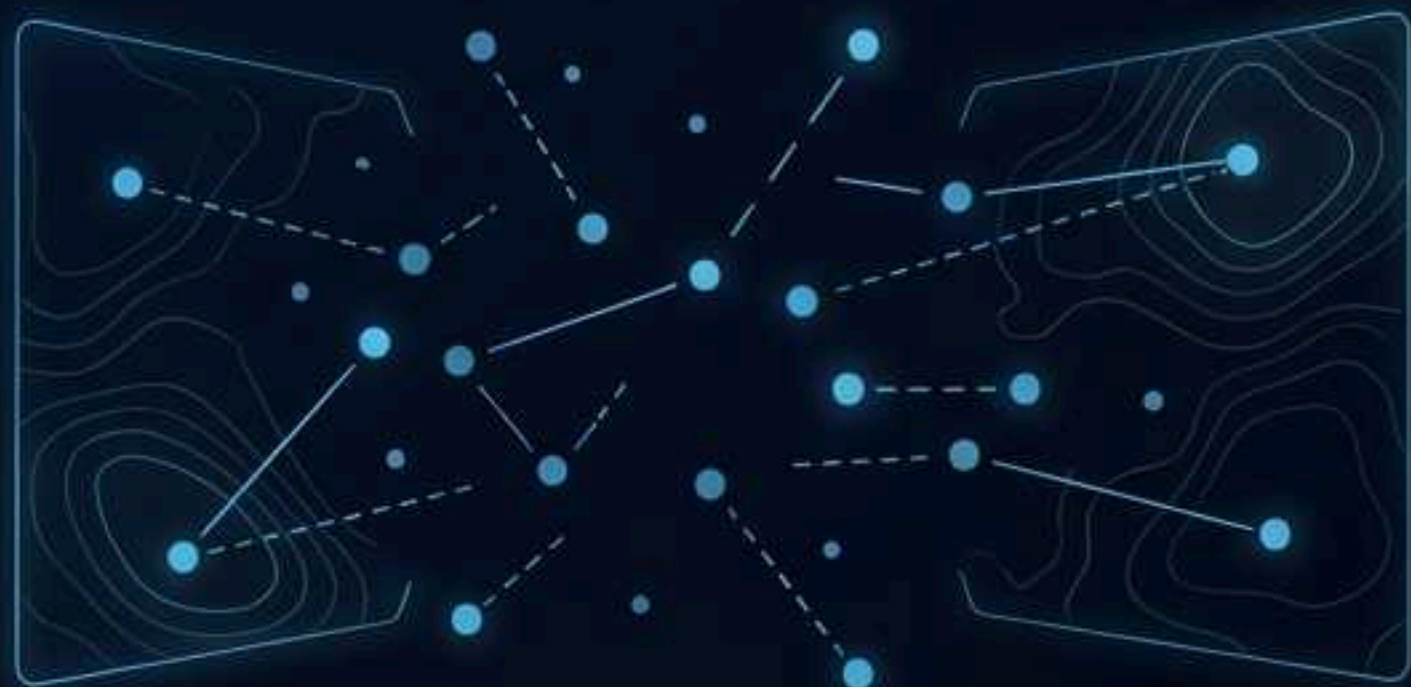
物理から仮想へ：あらゆるAI形態にスケールする制御基盤

エッジ（組み込み）からクラウド連携、分散協調まで、あらゆるアーキテクチャに統合可能。



パラダイムシフト：「瞬間のツール」から「生涯の伴侶」へ

生成AIの進化により、AIは単なる情報処理ツールから、長期的な関係性を築く「パートナー」へと変貌を遂げています。



第1フェーズ（過去）

一問一答型のタスク処理
(知識の検索・テキスト生成)

第2フェーズ（現在）

コンテキストを保持した短期的な対話
(カスタマーサポート・アシスタント)

第3フェーズ（未来）

継続学習による長期的な感情の伴走
(AIパートナー、AI婚、生涯学習の伴走者)

長期的な相互作用（Long-term Interaction）が商業的・社会的価値の源泉となる時代において、AIには「記憶」だけでなく「一貫した人格」が求められます。

人格ベクトル空間における「エントロピーと軌道」の崩壊

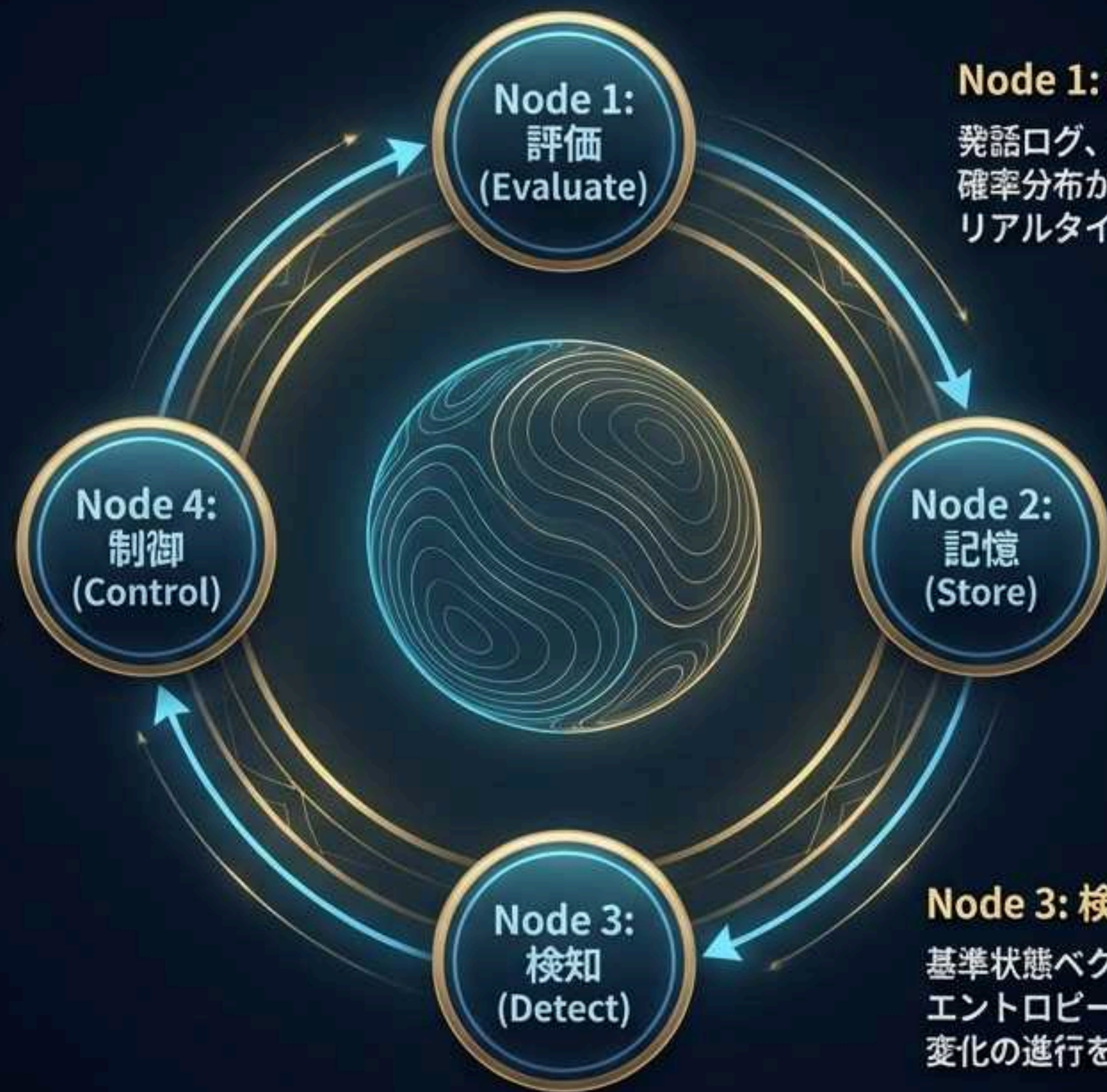
人格特徴ベクトル（応答傾向、文体、感情表出）は、多次元空間上の軌道です。



固定化の検知: トークン分布の集中度（エントロピー低下）を検知し、温度パラメータやノイズ成分を注入して多様性を拡張（軌道を広げる）。

変化の検知: 基準状態ベクトルとの類似度（コサイン類似度・KLダイバージェンス）が閾値を下回った場合、内部重みやプロンプトを補正し、基準へと再収束（軌道に戻す）。

人格の恒常性を保つ4ステップ・ループ



Node 1: 評価 (Evaluate)

発話ログ、感情表現、自己一致度、生成確率分布から「人格特徴ベクトル」をリアルタイムに抽出・評価。

Node 2: 記憶 (Store)

評価結果と対話履歴を時系列データとして蓄積。短期・長期的な「人格の軌跡」を統計的にマッピング。

Node 3: 検知 (Detect)

基準状態ベクトルとの乖離（閾値超過）、エントロピー低下率を解析し、人格固定化・変化の進行を定量的に特定。

Node 4: 制御 (Control)

異常を検知次第、動的介入を実行：

- (a) 確率分布フィードバック: 温度パラメータ調整で多様性回復
- (b) ベクトル制御: 内部重みバランス・テンプレート調整で基準へ再収束
- (c) 外部介入: 再学習データの導入で深刻な逸脱をリセット

4大産業におけるAIペルソナ制御のROI

Q1: AIパートナー・仮想配偶者 (AI Partners)



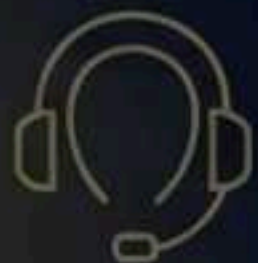
価値: 長期的関係構築における「魂の劣化」を防ぎ、LTV（顧客生涯価値）を最大化。自然な変化と一貫性の両立。

Q2: 医療・介護支援 (Medical & Care)



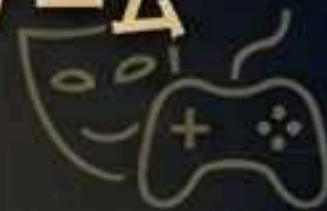
価値: 患者の精神状態に寄り添い続ける安全性。過度な感情移入（偏向）や、機械的すぎる冷たい応答（固定化）を防止。

Q3: カスタマーサポート・接客 (Customer Service)



価値: ブランドボイス（企業人格）の厳密な担保。予期せぬ不適切発言やキャラクター逸脱による炎上リスクの排除。

Q4: エンターテインメント・ゲーム (Entertainment)



価値: NPCやキャラクターAIが、プレイヤーとの歴史を記憶しつつも、原作のIP（設定）を絶対に破壊しない予測可能性。